

IASB 公開草案「特約条項付の非流動負債（IAS 第 1 号の修正案）」に対する意見提出（2022.3.18）

国際会計基準審議会（IASB）は、企業が報告期間後 12 ヶ月以内に返済が必要となる可能性がある負債を非流動負債に分類した場合の情報開示に対する意見の募集を 2021 年 11 月 19 日に公表した。

経理委員会は、財務健全性に問題ない企業にとっては過度な開示となる、また、将来予測的な情報は監査可能性や客観的合理性の担保が困難であるため同意しない旨の意見を取りまとめ、2022 年 3 月 18 日、IASB に提出した。

政一発 第 118 号

2022 年 3 月 18 日

国際会計基準審議会 御中

一般社団法人 日本貿易会
経理委員会

IASB 公開草案「特約条項付の非流動負債（IAS 第 1 号の修正案）」に対する意見提出の件

以下は、国際会計基準審議会（IASB）の公開草案「特約条項付の非流動負債（IAS 第 1 号の修正案）」（以下「本公開草案」と言う。）に対する一般社団法人日本貿易会経理委員会（以下「当会」と言う。）のコメントである。一般社団法人日本貿易会は、日本の貿易商社及び貿易団体を中心とする貿易業界団体であり、当会は、本邦会計基準及び国際会計基準への対応を主な活動内容の一つとしている。（末尾に当会の参加会社を記載。）

質問 1 — 分類及び開示（第 72B 項及び第 76ZA 項(b)）

当審議会は、IAS 第 1 号の第 69 項(d)を適用する目的上、企業が報告期間後 12 か月以内に遵守しなければならない所定の条件は、報告期間の末日現在で、負債の決済を報告期間後少なくとも 12 か月にわたり延期する権利を企業が有しているかどうかには影響を与えないと要求することを提案している。したがって、そのような条件は、負債の流動又は非流動への分類には影響を与えないこととなる。その代わりに、そのような条件の対象となっている負債を企業が非流動に分類する場合には、当該負債が 12 か月以内に返済すべきものとなる可能性があるというリスクを財務諸表利用者が評価できるようにする情報を注記において開示することを要求される。これには次の情報が含まれる。

(a) 当該条件（例えば、その内容及び企業がそれを遵守しなければならない日付など）

(b) 報告期間の末日現在の状況に基づくならば、企業が当該条件を遵守しているかどうか

(c) 企業が報告期間の末日後に当該条件を遵守すると見込んでいるかどうか、及びどのように遵守すると見込んでいるか

結論の根拠の BC15 項から BC17 項及び BC23 項から BC26 項は、この提案についての当審議会の論拠を説明している。

この提案に同意するか。賛成又は反対の理由は何か。提案に反対である場合、その代わりにどのような提案をするのか及びその理由を説明されたい。

同意しない。

- ・ 財務健全性が論点となる企業（＝コベナントを現時点で満たしていない、乃至は将来時点でも満たすか不明など）においては、本提案は資金調達の不確実性を判断する上で有用であると考え、財務健全性に問題がない企業（＝コベナントを現時点でも将来時点でも満たす、乃至は他の手段により企業が必要な資金調達を行うことが可能な場合など）にとっては、有用性は必ずしも高くなく、財務健全性が論点となる企業と同一の開示を求めることは不必要な開示情報の増大を招くものである。
- ・ IAS 第 1 号 31 項にて情報の重要性の判断が伴うことは規定されているものの、本公開草案のように、詳細かつ具体的な要求事項の記載された基準に対し、定性的な重要性を適切に評価し、更に監査対応を行うことは実務上難易度が高い。そのため、重要性が十分に考慮されず、重要ではない情報が詳細に開示される、もしくは定型文が繰り返し開示され重要な情報が覆い隠されてしまう恐れがある。加えて、情報収集や監査手続きなどの実務負荷も踏まえると、報告企業にとって過度な開示要求であると考え。
- ・ 報告期間の末日現在及び末日後の当該条件の遵守の見込みの開示は、将来予測的な情報であり、企業の主観的な見込みに基づいた遵守見通しが開示されることが考えられ、その監査可能性や客観的合理性の担保は困難であると考え。加えて、企業の属する業界に季節性がある場合や、資産の購入及び資金調達等により財政状態計算書の構成が大きく変動することを見込んでいる場合等、報告期間の末日現在の企業の状況と、特約条項の遵守の判定を行う際

の企業の状況が大きく異なるケースでは、報告期間末日現在の状況に基づく遵守状況の開示は、投資家をミスリードする可能性がある。

- ・ 特約条項付の負債が 12 か月以内に返済すべきものとなる可能性があるというリスクを開示する枠組みは、IFRS 第 7 号第 39 項及び IAS 第 1 号第 25 項の開示要求によって既に設けられているため、本提案による開示が追加で要求される場合、開示情報が重複する可能性がある。そのため、具体的な条件や遵守状況までの注記は不要であり、仮に開示要求する場合においても当該条件の付された負債の金額及び財政状態計算書における表示科目を開示することで十分と考える。

質問 2 — 表示 (第 76ZA 項(a))

当審議会は、非流動に分類した負債のうち、企業が決済を報告期間後少なくとも 12 か月にわたり延期する権利が、報告期間後 12 か月以内に所定の条件を遵守することを条件としている負債を、財政状態計算書において、区分して表示するよう企業に要求することを提案している。

結論の根拠の BC21 項から BC22 項は、この提案についての当審議会の論拠を説明している。

この提案に同意するか。賛成又は反対の理由は何か。提案に反対である場合、当審議会が検討した代替案 (BC22 項参照) のいずれかに同意するか。その代わりにどのような提案をするのか及びその理由を説明されたい。

同意しない。

- ・ BC22 項 (a) とマッケンジー氏及びスコット氏の見解に賛同する。財政状態計算書において具体的に区分表示の要求を設けた一律の区分表示は、IFRS の原則主義の性質から外れており、企業によっては目的適合性のない情報 (irrelevant information) となる懸念がある。12 か月以内に条件遵守を条件としている非流動負債については、財政状態の理解への目的適合性を各企業が判断し、追加的な分解表示とするか注記における開示を行うかを決定する方が、財務諸表利用者にとって有意義と考える。また、現行の IFRS 基準に於いても利用者に目的適合性があるのであれば (即ち、12 か月以内にコベナントを満たさないリスクがある場合) 区分表示が要求されており、追加の開示要求は不要と考える。
- ・ 遵守されることが確実な特約条項が付されている場合にも、財政状態計算書において区分表示を行うことが要求されるため、企業が特約条項の遵守について不確実性があるかのような過度なリスク情報を提供する恐れがある。また、他の資金調達手段を加味せず、特約条項の有無により区分表示を行うことは、企業の流動性リスク管理の実態を反映せず、財務諸表の理解可能性が損なわれるものとする。

質問 3 – 本提案のその他の側面

当審議会は次のことを提案している。

(a) IAS 第 1 号の第 69 項(d)を適用する目的上、負債の決済を報告期間後少なくとも 12 か月にわたり延期する権利を企業が有していない状況を明確化する (第 72C 項)。

(b) 修正を IAS 第 8 号「会計方針、会計上の見積りの変更及び誤謬」に従って遡及適用することを企業に要求し、早期適用を認める (第 139V 項)。

(c) IAS 第 1 号の修正「負債の流動又は非流動への分類」の発効日を、公開後に決定する日付 (ただし 2024 年 1 月 1 月以後とする) 以後に開始する事業年度まで延期する (第 139U 項)。

結論の根拠の BC18 項から BC20 項及び BC30 項から BC32 項は、これらの提案についての当審議会の論拠を説明している。

これらの提案に同意するか。賛成又は反対の理由は何か。提案のいずれかに反対である場合、その代わりにどのような提案をするのか及びその理由を説明されたい。

(a)同意する。

(b)同意しない。

遡及適用する場合、76ZA 項(b)(ii)及び(iii)について、比較年度分も開示が要求されることになると考えられるが、過去の企業の判断を開示することは実務上困難である。また、情報の有用性に乏しいため、適用初年度における 76ZA 項(b)(ii) 及び(iii)に関する開示を免除する規定が必要であると考えます。

(c)同意する。

以 上

一般社団法人日本貿易会

〒100-0013

東京都千代田区霞が関三丁目 2 番 1 号
霞が関コモンゲート西館 20 階

経理委員会委員会社

CBC 株式会社

蝶理株式会社

阪和興業株式会社

株式会社日立ハイテク

株式会社ホンダトレーディング

稲畑産業株式会社

伊藤忠商事株式会社

岩谷産業株式会社

JFE 商事株式会社

兼松株式会社

興和株式会社

丸紅株式会社

三菱商事株式会社

三井物産株式会社

長瀬産業株式会社

日鉄物産株式会社

野村貿易株式会社

神栄株式会社

双日株式会社

住友商事株式会社

豊田通商株式会社

ユアサ商事株式会社

Document No.118

March 18, 2022

To the International Accounting Standards Board

Accounting & Tax Committee

Japan Foreign Trade Council, Inc.

**Comments on the Exposure Draft “Non-current Liabilities with Covenants
(Proposed amendments to IAS 1)”**

The following are the comments from the Accounting & Tax Committee of Japan Foreign Trade Council (JFTC) regarding the International Accounting Standards Board (IASB)’s Exposure Draft “Non-current Liabilities with Covenants (Proposed amendments to IAS 1)”. JFTC is a trade-industry association with Japanese trading companies and trading organizations as its core members, while the principal function of its Accounting & Tax Committee is to respond to developments in Japanese and international accounting standards. (Member companies of JFTC Accounting & Tax Committee are listed at the end of this document.)

Question 1—Classification and disclosure (paragraphs 72B and 76ZA(b))

The Board proposes to require that, for the purposes of applying paragraph 69(d) of IAS 1, specified conditions with which an entity must comply within twelve months after the reporting period have no effect on whether an entity has, at the end of the reporting period, a right to defer settlement of a liability for at least twelve months after the reporting period. Such conditions would therefore have no effect on the classification of a liability as current or non-current. Instead, when an entity classifies a liability subject to such conditions as non-current, it would be required to disclose information in the notes that enables users of financial statements to assess the risk that the liability could become repayable within twelve months, including:

- (a) the conditions (including, for example, their nature and the date on which the entity must comply with them);
- (b) whether the entity would have complied with the conditions based on its circumstances at the end of the reporting period; and
- (c) whether and how the entity expects to comply with the conditions after the end of the reporting period.

Paragraphs BC15–BC17 and BC23–BC26 of the Basis for Conclusions explain the Board’s rationale for this proposal.

Do you agree with this proposal? Why or why not? If you disagree with the proposal, please explain what you suggest instead and why.

We do not agree.

- For entities where financial soundness is an issue (e.g., entities where covenants are not met at present, or where whether they will be met in the future is uncertain), this proposal might be useful for judging the uncertainty of accessing financing. On the other hand, for entities where financial soundness is not an issue (e.g., entities that meet covenants at present and will do so in the future, or that can access the necessary financing via other means), the proposal is not necessarily useful and would lead to an increase in unnecessary disclosures by subjecting them to the same disclosure requirements as entities where financial soundness is an issue.
- Paragraph 31 of IAS 1 stipulates that an entity need not provide a specific disclosure required by an IFRS if the information resulting from that disclosure is not material. In practice, however, it is highly difficult for entities to appropriately assess the qualitative materiality of detailed and specific disclosures required by IFRS Standards like this

Exposure Draft and to deal with auditing related to the assessment. Accordingly, there is concern that due to the lack of sufficient consideration of materiality, immaterial information might be disclosed in detail or material information might be obscured by repeated disclosure of boilerplate text. Moreover, considering the practical burden of information collection, audit procedures, and so forth, we think this proposal would result in excessive disclosure for reporting entities.

- The disclosure of whether the entity would have complied with the conditions at the end of the reporting period and whether it expects to comply with them after the end of the reporting period is forward-looking information. What is disclosed is likely to be the prospect for compliance based on the entity's subjective expectations, making it difficult to ensure auditability and objective rationality. Moreover, disclosing compliance status based on the circumstances at the end of the reporting period might mislead investors in cases where the entity's circumstances substantially differ between the end of the reporting period and the time when compliance with covenants is determined—example being cases where the entity's industry has seasonality, or the composition of the statement of financial position is projected to change greatly owing to asset purchases, financing, and other factors.
- The framework of disclosing the risk that liabilities with covenants could become repayable within 12 months is already provided for in the disclosure requirements in paragraph 39 of IFRS 7 and paragraph 25 of IAS 1. Therefore, if the proposed disclosure were to be additionally required, the disclosed information might overlap with information already provided. For that reason, we do not consider it necessary to disclose specific conditions and compliance status in the notes. Even if that disclosure is required, it should suffice to disclose the amounts, and the line items in the statement of financial position, of liabilities subject to the conditions.

| |
|--|
| Question 2—Presentation (paragraph 76ZA(a)) |
|--|

| |
|--|
| <p>The Board proposes to require an entity to present separately, in its statement of financial position, liabilities classified as non-current for which the entity's right to defer settlement for at least twelve months after the reporting period is subject to compliance with specified conditions within twelve months after the reporting period.</p> |
|--|

| |
|---|
| <p>Paragraphs BC21–BC22 of the Basis for Conclusions explain the Board's rationale for this proposal.</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>Do you agree with this proposal? Why or why not? If you disagree with the proposal, do you</p> |
|---|

agree with either alternative considered by the Board (see paragraph BC22)? Please explain what you suggest instead and why.

We do not agree.

- We agree with paragraph BC22(a) and the view of Mr. Mackenzie and Mr. Scott. Mandating across-the-board separate presentation in the statement of financial position by specifically requiring separate presentation is contrary to the principle-based nature of IFRS Standards and could lead to the presentation of irrelevant information at some entities. Regarding non-current liabilities subject to compliance with conditions within 12 months, it would be more beneficial to financial statement users to have each entity judge the relevance to an understanding of its financial position and decide whether to present further disaggregation or to disclose them in the notes. Also, the current IFRS Standards require separate presentation if it is relevant to users (that is, if there is a risk that covenants may not be met within 12 months). Therefore, we believe that additional disclosure requirements are unnecessary.
- This proposal requires entities to present liabilities with covenants separately in the statement of financial position even if the covenants will certainly be complied with. This might lead to the provision of excessive risk information as if there were uncertainty regarding the entity's compliance with the covenants. Furthermore, separate presentation based solely on the existence of covenants without considering other means of financing would not reflect the actual conditions of the entity's management of liquidity risk and could reduce the understandability of the financial statements.

Question 3—Other aspects of the proposals

The Board proposes to:

- (a) clarify circumstances in which an entity does not have a right to defer settlement of a liability for at least twelve months after the reporting period for the purposes of applying paragraph 69(d) of IAS 1 (paragraph 72C);
- (b) require an entity to apply the amendments retrospectively in accordance with IAS 8 Accounting Policies, Changes in Accounting Estimates and Errors, with earlier application permitted (paragraph 139V); and
- (c) defer the effective date of the amendments to IAS 1, Classification of Liabilities as Current or Non-current, to annual reporting periods beginning on or after a date to be decided after exposure, but no earlier than 1 January 2024 (paragraph 139U).

Paragraphs BC18–BC20 and BC30–BC32 of the Basis for Conclusions explain the Board's

rationale for these proposals.

Do you agree with these proposals? Why or why not? If you disagree with any of the proposals, please explain what you suggest instead and why.

(a) We agree.

(b) We do not agree.

We assume that retrospective application would require disclosure regarding paragraphs 76ZA(b)(ii) and 76ZA(b)(iii) for comparative annual periods too. However, disclosing past judgments of entities is practically difficult. Also, a provision should be added that exempts regarding paragraphs 76ZA(b)(ii) and 76ZA(b)(iii) in the first annual reporting period in which the entity applies the amendments, due to the limited usefulness of the information.

(c) We agree.

Japan Foreign Trade Council, Inc.

Kasumigaseki Common Gate West Tower 20F

3-2-1, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,

Tokyo 100-0013, Japan

Website: https://www.iftc.or.jp/english/home_e.htm

Members of the Accounting & Tax Committee

CBC Co., Ltd.

Chori Co., Ltd.

Hanwa Co., Ltd.

Hitachi High-Tech Corporation

Honda Trading Corporation

Inabata & Co., Ltd.

Itochu Corporation

Iwatani Corporation

JFE Shoji Trade Corporation

Kanematsu Corporation

Kowa Company, Ltd.

Marubeni Corporation

Mitsubishi Corporation

Mitsui & Co., Ltd.

Nagase & Co., Ltd.

Nippon Steel Trading Corporation

Nomura Trading Co., Ltd.

Shinyei Kaisha

Sojitz Corporation

Sumitomo Corporation

Toyota Tsusho Corporation

Yuasa Trading Co., Ltd.